

平成18年度総会・特別講演会報告

Report on the JSPME General Assembly 2006 and the Special Lectures

中外製薬(株) 浮間工場
Chugai Pharmaceutical Co. Ltd. Ukima Plant

落合 宏 則
Hironori OCHIAI



平成18年度総会・特別講演会

平成18年度の製剤機械技術研究会総会および特別講演会が4月25日（火曜日）、きゅりあん1階小ホール（東京区・品川区）にて開催された。

1. 総会

総会への出席者は349名（出席者42名（最終56名）、委任状307名）であり、会員総数814名の4分の1以上を満たし会則に基づき総会が成立した旨、司会の大久保事務局長から報告があった。

開会にあたり寺田勝英会長より以下の内容の挨拶があった。

昨年、製剤機械技術研究会は15周年を迎え、記念事業として、発展が著しい上海、杭州、蘇州の中国製薬工場などの視察を行ったほか、約2年の歳月をかけて作成した技術用語辞典を会員へ配布した。

また、当会として厚労省にICH Q8製剤開発（案）、Q9品質リスクマネージメント（案）のパブリック

コメントを提出し、FDAにもQ9への意見を提出してきた。

好評の教育研修会は昨年より内服固形剤に新たに無菌製剤を加え開催したが、本年度はこれらの研修会を継続して行うほか、奈良県製薬薬剤師会との共催による出張教育も計画している。

各種委員会も活発に行われPAT委員会では、HS財団、ISPE日本本部、および日本PDAと協賛で「PATは我が国製薬業にパラダイムシフトをもたらすか？」のテーマでシンポジウムを開催し、お互いの取り組みを紹介し有意義であった。GMP委員会では、日薬連と適格性評価についての議論を活発に行った。

本年も講演会、大会、シンポジウムを8月、10月、12月に、工場見学を3回予定している。GMP委員会からは包装・原薬関係のGMP手順書の刊行を予定している。さらにホームページ委員会では、シン

ポジウムなどの申し込みをホームページ上からの申し込みを可能とし、会員専用ページを作成する予定である。

これら広範囲な活動や成果に関しては、会員の皆様のボランティア活動に支えられており、会員および関係企業のご協力に対してお礼を申し上げるとともに、昨年度同様活動に対してご支援とご協力をお願いしたい。

引き続き、会則の規定に従い寺田会長が議長となり、議事に入り、議事録署名人として(株)パウレックの高嶋武志氏と石川島プラントエンジニアリング(株)の武田豊彦氏が選出された。

まず、愛知絏治副会長より〔第1号議案〕平成17年度会務報告があり、15周年記念事業、各種委員会の活動状況などの報告があった。次に草井章副会長より〔第2号議案〕平成17年度決算報告があり、続いて砂田久一監事より平成17年度監査報告がなされた。続く審議事項では愛知絏治副会長より〔第3号議案〕平成18年度会務計画案について、草井章副会長より〔第4号議案〕平成18年度予算案について説明があり、満場一致で採択された。役員選考委員会の武田豊彦委員より〔第5号議案〕平成18年度役員改選案が提示され、承認された。

〔第6回製剤機械技術研究会 仲井賞〕について選考委員の佐藤耕治委員よりパウレック(株)の長谷川浩司氏が受賞者として決定されたことが報告された。受賞テーマは「全自動錠剤コーティング装置“パウレックコーター”の開発」であり、10月12日～13日に開催される第16回大会で授賞式と受賞講演が行われる。

最後に愛知絏治副会長より、製薬業界はM&Aなどにより業界地図が変わっている中で製剤機械技術研究会は、国内外の最新技術や薬務・薬事情報を伝え日本をリードする会員に役立つ会を目指し、活発な活動により各事業を立派に成立できるようにしていきたいとの閉会の辞があり、総会を終了した。

2. 特別講演会

総会に続いて92名の参加者のもと2題の特別講演が行われた。

特別講演・1は、松本治先生(千代田化工建設(株)医薬品プロジェクト部 技師長)を講師に、座長に山本恵司顧問を迎えて「中国医薬業界の一断面—製剤研主催・中国医薬品事情視察ツアーから得られたもの—」と題して、特別講演・2は、村浜政貴先生

(澁谷工業(株) ロボットシステム技術部 設計課課長)を講師に、座長に岡田弘晃副会長を迎えて「医薬品生産現場における知能ロボットの活用」と題して講演された。松本先生の講演内容は、製剤機械技術研究会の15周年記念事業と工場見学会30回目の節目の企画であり、発展の著しい中国医薬事情の視察の成果を、村浜先生は世界一のロボット普及国にあって医薬品生産現場では少ないロボットの活用について発表され、興味深く拝聴した。

2-1 「中国医薬業界の一断面」

製剤機械技術研究会の15周年記念事業の一環として、寺田会長を団長に製薬会社、機械メーカー、計器メーカー、およびゼネコン各社から総勢24名で構成し、昨年10月23日から29日に中国医薬事情の視察を実施した。その内容を豊富な写真を用いて松本先生から講演された。中国では2004年GMP認証の義務化(6月末)を図ることと、知的財産権に関するWTO(世界貿易期間)の保護期間が切れることから、中国医薬業界の大きな潮流の変化を確認することや今後のビジネスに反映することなどを目的に、上海を中心に蘇州および杭州の上海薬事行政責任者の講演を聴講し、あわせて10工場の見学、中国国際医療見本市などの視察も行った。上海市食品薬品监督管理局(SMFDA)では、潘処長から中国食品薬品监督管理局(DFDA)のもとに30の省・自治区から構成され、医薬品製造は所在地の监督管理局に生産許可申請し、許可証が発行されることになっており、地方への権限が委譲されている。薬品生産質量管理規範(中国版GMP)は、これまで3回改定され、FDAに近くグローバル基準であった。2004年のGMP認証の義務化により中国全土で6000社と言われる中で約1000社が淘汰され、上海では20社が認証の取得ができなかったことなど厳しく適用され



松本 治先生

ていることが報告された。上海医薬行業協会では陳会長より温首相が人民病院や診療所の設置を指令したことで薬が必要となり、マーケットは拡大していくことが最近の話題として取り上げられた。上海医薬進出口公司では李総経理から中国におけるの委託加工分野でのパートナーマッチングとして、i) 合作の推進手順、ii) パートナーの選定条件、iii) 日中間で合作できる分野などの講演を受け、中国の企業展開で成功する上で重要な点が示された。正大青春宝薬業（杭州）では、全てが自社設計で年間80億錠を生産するユニークな固形製剤工場を見学したことが報告された。

まとめとして、①農村医療は国策であり、中国は大きなマーケットとなる。②2004年のGMP適用化で一部の企業が淘汰された結果、品質保証の意識が浸透した。③委託業務の優れたパートナーとの連携のためにはコンサルタントの存在が重要である。④日本企業として中国展開し、利益をあげるには駐在員の熱意が必要であり時間がかかる。⑤中国は広く正大青春宝薬業のような、我々が考えてもいないような“自ら工場を設計し発想する製剤工場”があった。⑥知的財産権の対応には努力と時間を要する。⑦2004年のGMP適用化により中国企業での設備投資は一巡し、日本メーカーはチャンスを逃した。⑧イタリア、ドイツの西欧機械メーカーは国を挙げて営業展開し、代理店によるメンテナンスの充実化を図っている。最後に視察団を通じて参加者間の交流が図れ、大変有意義であったと結ばれた。

2-2 「医薬品生産現場における知能ロボットの活用」

2004年のロボット使用実績では稼働台数が2位のアメリカ・ドイツがそれぞれ12万台に対し日本は35万台であり、世界のロボット工業国である。その8割は自動車・電気関連で使用されており（平成17年度）、医薬品生産現場では普及していないのが現状であるとの説明があった。また、ロボットに関して適用される法律上の規制として、i) 安全柵で囲わなければならない、ii) 安全教育を受けたものだけがロボットティーチングできる点を上げられ、ロ



村浜政貴先生

ボットの導入障壁になるような大きな規制はなく、実機のアプリケーションを意識した具体的な実践的なロボットの教育が重要だと示した。

澁谷工業では13年前からカメラを用いた画像処理やコンベアトラッキング技術を使った知能ロボットの製造実績があり、ロボットとコンベアトラッキングを組み合わせ例として、プレフィルドシリンジの洗浄機の連続供給装置、PTP包装ラインの例としてロボットカートナーとロボットケーサーを用いた自動化ラインを、安定稼動とコンパクト化資材の自動投入をコンセプトに開発した放射線製剤組み立てライン、信頼性を向上させるためグローブレスで汚染源の人間を排除したアイソレーター型滅菌対応ロボットの例を画像として紹介した。その中でロボットは重いものを持つ、フレキシブルで繰り返し精度が高い、暑さ寒さに強い、塵埃の発生が非常に少ないなどが得意だが、数値化したことした判別できない面を持っている。ヒトは検査精度が高く突飛な異常に強いが、個人差・日によって違う、習熟により厳しくなりやすい、数値化しにくいことを特徴として挙げた。

最後に、ロボットは高機能化、高速化しているが、システムメーカーとして、チョコ停のない安定稼動の、見た目シンプルでフレキシブルな、信頼性とメンテナンス性を向上させたトータルバランスの良い知能ロボットを構築・提案することにより、喜ばれる有効なツールとしてのロボット装置を作りたいと結んだ。

平成17年度会務報告

平成18年4月25日

会 務	回数	開催日	場 所/内 容	参加者(名)
平成17年度 総会・特別講演会	1	4月11日	文京シビック小ホール (東京・文京区)	総会(含委任状) 271名 特別講演会 131名
第15回大会(東京)	1	10月13日～ 10月14日	タワーホール船堀 (東京・江戸川区)	大会 283名 会員交流会 193名
第14回講演会	1	8月4日	千里ライフサイエンスセンター (大阪)	講演会 186名
第6回製剤機械技術 シンポジウム	1	12月1日	こまばエミナース (東京・目黒区)	163名
15周年記念事業	2	9月5日 10月23日～ 29日	技術用語辞典発行 30回記念中国工場見学会	2000部 24名
仲井賞発表	1	10月13日	尾関 有一氏、三宅 康夫氏	2名
工場見学会 (28回～29回)	2	3月4日 6月17日	サントリー(株) 九州熊本工場 明治製菓(株) 小田原工場	23名 140名
第4期教育研修会	11	5月14日～ 11月19日	東邦大学他 内服固形剤 8回 無菌製剤 3回	延 387名 延 136名
会誌の発行 Vol.14(No.1～4)	4	3月,6月,9月 12月		
会員名簿発行(17年 度版)	1	9月		

会 務	回 数	会 務	回 数
・役員会	1	・会誌/論文 編集委員会	4
・常任委員会	2	・工場見学会実行委員会	9
・正副会長会議	6	・ホームページ委員会	5
・正副委員長会議	1	・GMP委員会関係	36
・第15回大会実行委員会	9	・教育委員会	7
・第14回講演会実行委員会	3	・第16回大会実行委員会	1
・第6回製剤機械技術 シンポジウム実行委員会	4	・PAT委員会	4
・国際委員会	3	・技術用語編集委員会	7
		・その他	4
総開催数 124回 (昨年度実績 122回)			

平成17年度 収支決算報告書

(自：平成17年1月1日 至：平成17年12月31日)

[収入の部]

[単位：円]

大科目	小科目	本年度予算	実績	備考
会費収入	事業体会費	38,000,000	37,800,000	187社×20万, 4社×10万
	個人会費	1,250,000	1,220,000	244名×5000円
	小計	39,250,000	39,020,000	
事業収入	講演要旨集広告代	900,000	800,000	16社×50,000円
	会誌広告代	3,500,000	3,062,000	47, 48, 49号, 50号まで
	大会展示小間代	1,000,000	550,000	11小間×5万円
	大会個人会員参加費	1,000,000	630,000	非会員含む
	交流会参加費	960,000	888,000	111名×8000円
	講演会非会員参加費	50,000	132,000	44名×3000円
	教育研修会参加費	5,800,000	9,260,000	635万円(固形) + 291万円(無菌)
	シンポジウム非会員参加費	50,000	378,000	126名×3000円
	本等販売費/著作権料	700,000	570,610	技術用語集他
	工場見学参加費	100,000	145,000	28, 29回の2回分
	中国工場見学参加費	5,600,000	6,800,000	18名×30万円, 4名×35万円
	小計	19,660,000	23,215,610	
雑収入		10,000	4,220	受取り手数料等(本等の送料)
中計		58,920,000	62,239,830	
受取利息		19,000	763	銀行利息
別途積立金取崩し		5,555,774	5,555,774	15周年記念事業計画予算の取り崩し
収入計		64,494,774	67,796,367	
預り金(源泉所得税)		900,000	851,097	所得税の預り分
前期繰越金		53,395,683	53,395,683	
今期収入合計		118,790,457	122,043,147	

[支出の部]

[単位：円]

大 科 目	小 科 目	本 年 度 予 算	実 績	備 考
出版事業	会誌編集刊行費	6,800,000	6,879,763	
	会員名簿刊行費	450,000	421,050	
	GMP手順書刊行費	450,000	0	原稿未完成、本年6月予定
	技術用語刊行費	2,300,000	3,063,116	CD分追加による増加80万円
	小 計	10,000,000	10,363,929	
研究技術	総 会 費	450,000	396,246	
	大 会 費	7,500,000	6,820,841	
	大会展示小間代	1,900,000	1,496,775	出展会社11社、大学6社
	講演会費	800,000	939,390	
	シンポジウム費	800,000	1,281,673	演者11名
	教育研修会費	5,800,000	7,806,829	固形製剤参加者増加30名⇒37名、 無菌製剤コース新設
	仲 井 賞	570,000	577,450	
	中国工場見学会費	6,100,000	7,302,726	参加者24名
小 計	23,920,000	26,621,930		
委員会	執行委員会費	1,300,000	1,102,869	
	会誌編集委員会費	300,000	190,750	
	教育委員会費	300,000	275,500	
	工場見学会費	500,000	556,425	九州サントリー及び小田原明治製菓の工場見学会計2回実施
	ホームページ委員会費	450,000	442,500	
	GMP委員会費	800,000	882,010	分科会活動増加：包装、原薬、交流会2箇所、GMP委員会
	国際委員会費	400,000	117,711	
	PAT委員会費	500,000	375,610	
	技術用語編集委員会費	555,774	262,332	
	小 計	5,105,774	4,205,707	
管理費	出張交通費	500,000	789,073	講演会・教育研修会の出張費増加
	事務用品費	800,000	804,204	
	印刷費	1,100,000	850,751	コピー代金
	事務機リース料	1,000,000	1,136,730	パソコン、コピー機、電話機
	新聞図書費	100,000	81,680	
	一般消耗品費	50,000	50,015	
	器具備品費	100,000	132,300	スクリーン設置費
	サーバー使用費	400,000	309,021	
	通信費	600,000	573,441	
	業務委託費	130,000	105,000	決算報告等
	謝礼品費	30,000	0	
	交際費	30,000	66,750	慶弔費
	公租公課	90,000	72,000	
	小 計	4,930,000	4,970,965	

[単位 : 円]

大科目	小科目	本年度予算	実績	備考
事業所費	賃貸料 (三好)	4,000,000	4,049,718	
	水道光熱費	300,000	237,109	
	清掃料	50,000	24,945	
	小計	4,350,000	4,311,772	
人件費	給料	14,000,000	13,480,000	局員4名
	交通費	920,000	789,040	
	アルバイト料	50,000	40,000	
	小計	14,970,000	14,309,040	
保険料		250,000	69,468	雇用保険
海外出張費		500,000	412,679	
調査費		100,000	0	
予備費		400,000	0	
雑費		50,000	64,015	振込み手数料増加
小計		1,300,000	546,162	
中計		64,575,774	65,329,505	
前払金		300,000	32,150	
前年度前払金振替額		-383,400	-383,400	シビック、タワーホール船堀会場 費前年度支払い分清算
支出計		64,492,374	64,978,255	
預り金(源泉所得税)納付額		900,000	876,927	源泉徴収税の支払い
当期余剰金(次期繰越金)		53,398,083	56,187,965	
今期支出合計		118,790,457	122,043,147	

平成17年度の収支決算について上記の通り報告します。

平成18年1月17日 (火)

製剤機械技術研究会 会長

寺田 勝英



上記計算書および帳簿等による監査の結果、いずれも正確なものと認めます。

平成18年1月27日 (金)

製剤機械技術研究会 幹事

砂田 久

同

同

吉岡 敏夫



[預金・現金残高内訳]

定期預金	20,000,000
決済用普通預金	14,500,000
普通預金(会長)	19,198,582
普通預金(局長)	2,010,248
郵便預金	15,200
現金	463,935
合計	56,187,965

平成18年度会務計画

平成18年4月25日

会 務	日 程	場 所	実行委員長	備 考
総会・特別講演会	4月25日(火)	きゅりあん		特別講演2題
第16回大会(大阪)	10月12日(木) ～13日(金)	大阪千里ライフサイエンスセンター	山口実行委員長	交流会
第15回講演会	8月25日(金)	共立薬科大学	安藤実行委員長	
第7回製剤機械技術 シンポジウム	12月(未定)	名城大学	檀上実行委員長	
第31回工場見学会	2月9日(木)前泊 10日(金)	アルプス薬品工業(株) 大洋薬品工業(株)	小澤実行委員長	参加者名 63名
第32回	6月9日(金)	持田製薬工場(株)		参加募集 100名
第33回	10月後半予定	化学及血清療法研究所		未定
第5期教育研修会	内服固形製剤 5月より8回	東邦大学 他	愛知教育委員長	参加者 43名
	無菌製剤 5月より4回	澁谷工業(株)他	愛知教育委員長	参加者 34名
	奈良県製薬技術研修会 4月より8回	奈良県薬剤師会館	愛知教育委員長	参加者 70名
会誌の発行	発行 3, 6, 9, 12月	事務局	愛知編集委員長	
会員名簿発行	9月	事務局		

各委員会開催予定

(平成18年度)

・役員会	1回
・常任委員会	3回
・正副会長会議	6～7回
・正副委員長会議	3回
・第16回大会実行委員会	6～8回
・第15回講演会実行委員会	3～4回
・第7回製剤機械技術シンポジウム実行委員会	5～6回
・国際委員会	4～5回
・会誌/論文 編集委員会	5～6回
・工場見学会実行委員会	10～13回
・ホームページ委員会	6～7回
・GMP委員会、ワークショップ関係	30～35回
・教育委員会	10～12回
・第17回大会実行委員会	4～6回
・PAT実行委員会	未定
・その他	2回

平成18年度 収支予算

(自：平成18年1月1日 至：平成18年12月31日)

〔収入の部〕

(単位：円)

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備 考
会 費 収 入	事 業 体 会 費	38,000,000	37,800,000	37,200,000	186社×20万,
	個 人 会 費	1,250,000	1,220,000	1,210,000	242名×5000円
	小 計	39,250,000	39,020,000	38,410,000	
事 業 収 入	講 演 要 旨 集 広 告 代	900,000	800,000	800,000	16社×50,000円
	会 誌 広 告 代	3,500,000	3,062,000	3,200,000	51, 52, 53, 54号まで
	大 会 展 示 小 間 代	1,000,000	550,000	0	
	大 会 個 人 会 員 参 加 費	1,000,000	630,000	500,000	非会員含む
	交 流 会 参 加 費	960,000	888,000	800,000	100名×8000円
	講 演 会 非 会 員 参 加 費	50,000	132,000	100,000	33名×3000円
	教 育 研 修 会 参 加 費	5,800,000	9,260,000	8,950,000	(固形) 15万×35名, 3万×21名 (無菌) 8万×38名
	ワ ー ク シ ョ ッ プ 参 加 費	0	0	0	
	シ ン ポ ジ ウ ム 非 会 員 参 加 費	50,000	378,000	50,000	17名×3000円
	本 等 販 売 費 / 版 権 料	700,000	570,610	760,000	技術用語集他
	工 場 見 学 参 加 費	100,000	145,000	1,245,000	31、32、33、回の3回分
	中 国 工 場 見 学 参 加 費	5,600,000	6,800,000	0	
小 計	19,660,000	23,215,610	16,405,000		
雑 収 入		10,000	4,220	10,000	受取り手数料等
中 計		58,930,000	62,239,830	54,825,000	
受 取 利 息		19,000	763	10,000	
前 年 度 前 受 け 金		0	0	0	
前 年 度 前 受 金 振 替 額		0	0	0	
別 途 積 立 金 取 崩 し		5,555,774	5,555,774	0	
収 入 計		64,504,774	67,796,367	54,835,000	
預 り 金 (源 泉 所 得 税)		900,000	851,097	900,000	所得税の預り分
前 期 繰 越 金		53,395,683	53,395,683	56,187,965	
今 期 収 入 合 計		118,800,457	122,043,147	111,922,965	

〔支出の部〕

〔単位：円〕

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備 考	
出 版 事 業	会誌編集刊行費	6,800,000	6,879,763	6,800,000	原稿・印刷・送料	
	会員名簿刊行費	450,000	421,050	430,000	9月発行 900部	
	GMP手順書刊行費	450,000	0	900,000	6月予定：包装関係、 10月予定：原薬関係	
	技術用語刊行費	2,300,000	3,063,116	0		
出 版 物 費	小 計	10,000,000	10,363,929	8,130,000		
研 究 技 術	総 会 費	450,000	396,246	450,000	きゅうりあん	
	大 会 費	7,500,000	6,820,841	6,500,000	千里ライフサイエンスセンター	
	大会展示小間代	1,900,000	1,496,775	0		
	講演会費	800,000	939,390	700,000	共立薬科大学	
	講演研修	シンポジウム費	800,000	1,281,673	900,000	名城大学
	教育研修会費	5,800,000	7,806,829	8,000,000	固形：8回、無菌：4回	
	事業費	適格性評価ワークショップ費	0	0	0	
	仲 井 賞	570,000	577,450	250,000		
	中国工場見学会費	6,100,000	7,302,726	0		
小 計	23,920,000	26,621,930	16,800,000			
委 員 会	執行委員会費	1,300,000	1,102,869	1,150,000		
	会誌編集委員会費	300,000	190,750	300,000		
	教育委員会費	300,000	275,500	300,000		
	工場見学会費	500,000	556,425	1,848,000	会からの補助予算85万円、その他は参加費で充当	
	ホームページ委員会費	450,000	442,500	700,000	HPのメンテナンス	
	GMP委員会費	800,000	882,010	1,060,000	データベースシステム代 金	
	国際委員会費	400,000	117,711	400,000	翻訳代 40万円	
	PAT委員会費	500,000	375,610	200,000		
	技術用語編集委員会費	555,774	262,332	0		
	小 計	5,105,774	4,205,707	5,958,000		
管 理 費	出張交通費	500,000	789,073	100,000		
	事務用品費	800,000	804,204	500,000		
	会議費	0	0	300,000		
	印刷費	1,100,000	850,751	900,000		
	事務機リース料	1,000,000	1,136,730	1,100,000		
	新聞図書費	100,000	81,680	260,000		
	一般消耗品費	50,000	50,015	50,000		
	器具備品費	100,000	132,300	100,000	パソコン代	
	サーバー使用費	400,000	309,021	400,000		
	通信費	600,000	573,441	600,000		
	業務委託費	130,000	105,000	130,000	決算報告等会計業務	
	謝礼品費	30,000	0	10,000		
	交際費	30,000	66,750	60,000	慶弔費	
	公租公課	90,000	72,000	80,000		
小 計	4,930,000	4,970,965	4,590,000			

〔単位：円〕

大 科 目	小 科 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備 考
事 業 所 費	賃 貸 料 (三 好)	4,000,000	4,049,718	4,000,000	
	水 道 光 熱 費	300,000	237,109	250,000	
	清 掃 料	50,000	24,945	40,000	
	小 計	4,350,000	4,311,772	4,290,000	
人 件 費	給 料	14,000,000	13,480,000	12,650,000	局員4名
	交 通 費	920,000	789,040	900,000	
	ア ル バ イ ト 料	50,000	40,000	50,000	
	小 計	14,970,000	14,309,040	13,600,000	
保 險 料	250,000	69,468	200,000		
海 外 出 張 費	500,000	412,679	500,000		
調 査 費	100,000	0	50,000		
予 備 費	400,000	0	600,000		
雑 費	50,000	64,015	100,000	振込み手数料増加	
小 計	1,300,000	546,162	1,450,000		
中 計	64,575,774	65,329,505	54,818,000		
前 払 金	300,000	32,150	0		
前 年 度 前 払 金 振 替 額	▲ 383,400	▲ 383,400	▲ 32,150	きゅりあん	
支 出 計	64,492,374	64,978,255	54,785,850		
預り金（源泉所得税）納付額	900,000	876,927	900,000	税務署への納入	
当期余剰金（次期繰越金）	53,398,083	56,187,965	56,237,115		
今 期 支 出 合 計	118,790,457	122,043,147	111,922,965		

製剤機械技術研究会

役 員 名 簿

(五十音順)

会 長 寺 田 勝 英 (東邦大学薬学部 教授)

副 会 長 愛 知 紘 治 (元大正製薬(株) 治験薬製造センター長)

副 会 長 岡 田 弘 晃 (東京薬科大学薬学部 教授)

副 会 長 草 井 章 (三共(株) 製剤研究所 所長)

常任委員 安 藤 英 信 (エーザイ(株) 美里工場 製剤部 部長)

常任委員 大 塚 史 久 (大成建設(株) エンジニアリング本部 副本部長)

常任委員 梶 山 篤 司 (アステラス製薬(株) 製剤研究所 経口剤研究室 室長)

常任委員 川 島 嘉 明 (愛知学院大学薬学部 教授)

常任委員 久 米 龍 一 (塩野義製薬(株) 常務執行役員 製造本部長)

常任委員 高 嶋 武 志 ((株)パウレック 代表取締役社長)

常任委員 高 山 幸 三 (星薬科大学 教授)

常任委員 武 田 豊 彦 (石川島プラントエンジニアリング(株) INE 事業部 顧問)

常任委員 檀 上 和 美 (名城大学薬学部 教授)

常任委員 寺 菌 隆 (中外製薬(株) 品質保証部 部長)

常任委員 中 上 博 秋 (第一製薬(株) 製剤技術研究所 所長)

常任委員 伏 島 靖 豊 (フロイント産業(株) 代表取締役 会長)

委 員 今 井 良 則 (ノバルティスファーマ(株) 生産本部 テクニカルサポート部長)

委 員 荻 原 健 一 ((株)野村総合研究所 ヘルスケアイノベーション事業部 上席コンサルタント)

委 員 小 口 敏 夫 (山梨大学医学部 附属病院薬剤部 教授)

委 員 片 岡 隆 博 (武州製薬(株) 代表取締役 社長)

委 員 甲 木 宏 明 ((株)ミューチュアル 取締役 東京支店長)

委 員 釜 田 哲 郎 (不二パウダル(株) 医薬営業部 専門職次長)

委員 神谷明良 (ファイザー(株) 名古屋工場 製剤技術研究室 室長)

委員 佐藤耕治 (ニプロファーマ(株) 開発部 部長)

委員 島田啓司 (株菊水製作所 代表取締役社長)

委員 高木和行 (みづほ工業(株) 常務取締役)

委員 高橋 治 (サクラ精機(株) マーケティング部 学術広報課 課長)

委員 高橋正人 (大正製薬(株) 生産本部 生産第一研究室 室長)

委員 中島新一郎 (城西国際大学 副学長 薬学部長 教授)

委員 橋本亮二 (鹿島建設(株) エンジニアリング本部 本部次長)

委員 畑 洋三 (株畑鐵工所 代表取締役社長)

委員 花村 聡 (株ツムラ 品質保証部)

委員 福田健一 (澁谷工業(株) プラント営業統括本部 参与)

委員 本多 清 (CKD(株) 代表取締役 専務執行役員 自動機械事業本部長)

委員 松本 治 (千代田化工建設(株) 医薬品プロジェクト外部 技師長)

委員 宮田清巳 (ホソカワミクロン(株) 代表取締役 副社長)

委員 宮本誠人 (日揮(株) 産業プロジェクト統括本部 ライフサイエンス・ケミカル事業本部 本部長代行)

委員 山口俊和 (大日本住友製薬(株) 技術研究センター マネージャー)

委員 吉野廣祐 (田辺製薬(株) CMC 研究所 製剤研究統括マネージャー)

委員 米持悦生 (東邦大学薬学部 助教授)

監事 砂田久一 (名城大学薬学部 教授)

監事 山口博之 (明治製菓(株) 薬剤研究室 室長)

名誉会長 仲井由宣 (千葉大学 名誉教授)

顧問 杉原正泰 (創包工学研究会)

顧問 山本恵司 (千葉大学大学院薬学研究院 教授)

(敬称略、ゴシック字は新任役員です)